

第357回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成31年4月22日(月)午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 7人 出席委員 7人

出席委員

若杉 隆平	委員長	田村 明子	副委員長
飯塚 智	委員	中島慎一郎	委員
野内 隆裕	委員	大久保千春	委員
柳川かおり	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	務台 昭彦
常務取締役放送本部長	竹石 尚史
取締役報道制作局長	永田 広道
取締役編成局長兼番組審議会事務局長	宗田 英成
報道制作局次長兼制作部長	羽田 朗
報道制作局合評番組プロデューサー	竹野 和治
事務局	山崎 学
	小野塚由起子
	吉田 康宏

4 議 題

1) 番組合評

「NNNドキュメント」 19

さらば“東京都湯沢町”平成バブルを抜けると」

〔放送：平成31年3月31日(日)25:25-25:50〕

(説明：番組プロデューサー 竹野 和治)

2) 会社報告

① 3月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

② 講じた措置、公表など定例報告等 (報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要

会社側からは、平成が終わるということでニュースの特集として「新潟と平成」というシリーズを組んで放送している中で、新潟の平静を振り返るにあたり欠かせないテーマのひとつとしてバブル景気により大企業から大資本が流入し、それに抗えず町の意味とは別な形で変化が起きた「湯沢町の変遷」があげられ、テレビ新潟報道部も昭和の終わりから色々なテーマで湯沢町を取り上げてきた経緯もあり、平成の終わりに湯沢町というテーマを総括して平成を振り返る番組を制作した、という説明があった。

(委員の意見)

- 興味深く見ることができた。バブル最盛期を知らなかったので改めて勉強になった。バブル崩壊後の湯沢町の現状がよくわかる番組だった。
- 内容がコンパクトにまとまっていて非常に良かった。

- オープニングの演出が良かった。トンネルを抜けて花火が打ち上げられ、その花火がスキー場閉鎖の花火という衝撃から入るオープニングからそのまま引き込まれるように見ることができた。
- マンション住民の全体の年齢層が知りたかった。具体的な生活がどのようなもので、どういった意識で移住してきたのか知りたくなった。
- 町の人々の取り組みや定年後移住してきた人たちのエピソードは応援したくなるが、高年齢化の問題は根本的に解消されていないわけではないので番組を見ながら不安な気持ちになった。
- 映像が綺麗でBGM、ナレーションも非常に良かった。
- 程良く昔の映像が使われていて当時を思い出させてくれた。
- みんなで考え、みんなが知恵を出し合うことが必要だと思う番組だった。
- 日本のバブルの縮図が新潟にあったというフレーズが番組内にあったが、まさにその通りだと思った。
- マンション相談会に来ていた女性がその後どのような決断をしたのか追いかけて取材をして欲しかった。
- 地方都市がどのように生きていけばよいのかを考えさせられる番組だった。
- 社会の大きな変化の中で湯沢町も変化せざるを得なかったのだと思う。その部分を番組は良く伝えていたと思う。
- 番組からの提案という形ではなく、視聴者に考えさせる構成だったが、他の地域の取り組みなども紹介してくれるとよかった。
- 湯沢町の底力をこれからも見ていきたい。今後も引き続き取材して番組を作って欲しい。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

3月 …… 192件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成31年3月25日)から、昨日(平成31年4月21日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回第356回審議会では、「新潟×長野 一番Get! ケンミン生投票 信越ながら…ゴールデンやっちゃいます!!」を審議いただきました。

委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第357回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・3月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・民間放送新聞(3/23、4/3、13号)

以上